

# (案)

資料 1

平成30年度・令和元年度

小平市公民館運営審議会

令和2年3月17日

小平市中央公民館  
館長 坂本 伸之 様

提言

## 公民館事業企画委員会設置後の公民館活動の課題

時代を踏まえた公民館の存在意義と果たすべき役割  
～公民館の新しい役割について～

公民館は長年、時代とともに様々な役割を果たしてきましたが、社会教育を取り巻く環境は、経済のグローバル化、少子高齢化による人口減少により大きく変化し、地域コミュニティの衰退などを背景として、社会的課題も公民館制度開始当時とは大きく変容しています。公民館は社会教育活動の拠点であり、地域住民の交流の場、学習の場です。今こそ社会情勢を重視し、住民の様々なニーズを踏まえながら、人生100年時代と言われる令和時代の公民館のあり方を現実に照らして冷静に判断し、公民館が担う新しい役割について真剣に考えていく覚悟が必要かと思えます。

平成30年・令和元年度小平市公民館運営審議会（以下「運営審議会」という。）では、前述の内容及び2年間の公民館活動の実態を踏まえるとともに、市内11館に設置された事業企画委員会、公民館まつりその他の事業に各委員が参加して、公民館の活動状況を把握し、これらを基に公民館活動の方向性について定例会での審議を重ねてきました。その成果を市民の学習権を保障する教育施設である公民館の重要性に立脚し次期令和2年・3年度の公民館活動及び運営審議会の一助とするために、ここに提言としてまとめました。

## はじめに

### 小平市公民館運営審議会

会 長 勝谷 美紀子

副会長 久米 正幸

委 員 倉持 伸江

羽根田 厚子

菊地 征夫

大久保 めぐみ

矢島 浩

中村 眞一

畑野 茂実

多田 聡子

塩野 映一

江口 建之

山田 早紀子

## 1 公民館の存在意義と果たすべき役割

(1) 社会教育法に基づいた市民の学びの場であり、交流の場である公民館は、市民だれもが集える場所です。人口減少・施設の老朽化に伴い行政施設の複合化は自然な流れとしても、「公民館」の意義を、再確認して進めることは、極めて重要なことです。

- ① どのような利用ができるのか、地域の子どもたちから高齢者まで分かるように事業内容やサークル活動・催しなどについて紹介することが大切である。例えば、地区の自治会の掲示板や、にじバス等に、積極的な PR を行うなどが考えられる。
- ② ホールにパネル掲出をしたり、コンパクトな「しおり」を作成したりして公民館の理念や活動を市民に理解してもらうことも必要である。
- ③ 社会教育の理念、理想や公民館の存在意義と果たすべき役割についても、ひろく社会に理解されるように、公民館は積極的に発信する必要がある。
- ④ 小平市における外国人居住者増加に伴い国際理解に関する事業にも積極的に取り組む必要がある。

## 2 居場所づくりとつながり支援の拠点としての機能

(1) 人生100年時代といわれています。令和時代は70年程前の公民館創立当時の時代と比べ、現在の少子高齢化社会の時代とは社会環境、世代間関係とも根本的に異なっている実態があります。そのため現実を冷静に判断し、これからの公民館のあり方を根本的に見直していく覚悟が必要です。

① 気楽に立ち寄れ、ゆっくりとくつろげ、コミュニティづくりができるフリースペースを各館につくる。

② 高齢者以外の層の公民館利用を促進するために、「市民大学」講座を開設し、「令和〇年度入学生」のように、年単位で講座を受講できる受入れ体制を整える。

(2) 小平に関する様々な学びを通して、サークルや地域の団体の役員を担う人材育成が必要である。

### 3 公民館事業企画委員会

公民館事業企画委員会は、公民館を地域のコミュニティづくりの拠点とするために、地域住民の意向を適切に反映した講座等を企画する委員会で、小平市の公民館全館に設置しています。構成人数は各館で異なりますが、公民館利用者、自治会、学校関係者、民生委員児童委員等、地域に関わる様々な人たちで構成されています。

平成26年度に鈴木公民館に、27年度に小川公民館に設置され、29年度には残りの9館にも設置されました。

#### (1) 公民館事業企画委員会の報告及び検証

- ① 公民館事業企画委員会設置後の実態・成果・課題等の報告を求め、定例会で評価と今後の展望を協議する必要がある。
- ② 公民館事業企画委員会設置前と設置後の事業への参加者数や満足度（アンケート）を比較し、公民館事業企画委員会の効果を分析する。

#### (2) 公民館事業企画委員会のあり方及び事業企画に対する審議会からの意見提出

- ① 審議会は、公民館事業企画委員会のあり方及び事業企画について必要に応じて意見及び助言をすることができる。

#### (3) より良い公民館活動の企画・実施に向けて

- ① 各館の独自性を尊重しつつも、「公民館の役割」とは何かの共通認識を持つ工夫が必要である。
- ② 講座受講後の継続的な自主学習活動に向けて、サークル化に結び付く事業が必要である。
- ③ 公民館事業企画委員会の役割、公民館の役割等をテーマにした公民館事業企画委員会の研修が必要である。

#### 4 公共施設マネジメントについて

中央公民館、健康福祉事務センター及び福社会館の更新等に関する基本計画、小川駅西口地区市街地再開発事業公共床等の整備基本計画が策定されました。

以下の課題が記されています。

- ① 人口減少。少子高齢化
- ② 財政バランスの悪化
- ③ 施設の老朽化・更新時期の集中

小平市公共施設マネジメント推進計画では、市の現状を分析し、将来的な3つの課題と方向性を示しながら、市制施行100周年年度に向けた「次なる豊かさ」を実現するために、「いつまでもわくわくする場をみんなで創ろう」を掲げ取り組みを進めています。次世代の公共施設づくりとして、次の観点を取り込んだ施設づくりが必要です。

- ① 子どもや若者にとって魅力的なものである観点
- ② 将来的なニーズの変化に耐えうる柔軟な施設を作る観点
- ③ 今後の地域コミュニティの形成に資する活動拠点にないうる観点

#### 5 集会施設等の利用者負担の見直しについて

市民の学習権を保障する教育施設である公民館の重要性に立脚し、これからの公民館のあり方と存続を維持するためにも、現状維持を切望する。

- 6 次期審議会での検討を期待すること
  - (1) 他部署との連携
    - ① 市役所他部署との連携事業の推進
    - ② 学校・大学・企業・NPO等との連携事業の推進
    - ③ 公民館循環バスの提案
  - (2) 環境整備
    - ① 花小金井北公民館等の老朽化対策
    - ② 公民館全体のバリアフリーの推進
  - (3) サークル支援
    - ① 有償ボランティアなどによる役員の負担軽減策
    - ② メールなどによる意見交換など、会議などの簡略化
  - (4) 企画提案
    - ① 世代別に対象を絞った講座の企画
    - ② やさしい日本語講座の推進
    - ③ 防災講座の充実
  - (5) ハード面（バリアフリー化など）、ソフト面（サークル運営支援など）の高齢者対策の徹底
  - (6) 市報への公民館だよりの掲載